

福祉としての地域作業所である。財政的には、民間資金に、また、行政的にはボランティア等の地区組織化という形で住民に負担を転嫁し、地域管理化をはかる危険をふくんでいる。このような混沌とした中で地域作業所づくりが進めば進むほど、それだけの運動ではやっていけなくなることになる。障害者が地域で生きるということは二四時間の問題である。しかし作業所を利用する時間は限られた時間であり、残りの時間は家庭でということになる。もし、その家庭が崩壊してしまつたら……。そのような障害者もつ生活一般の問題を地域の中に提起していく原動力として地域作業所の実践的役割は大きいであろう。

(障害者共同作業所「空とぶくじら社」代表)

働らく若人のふれあいの場を

根本 愛弓(鶴見区 21歳)

ヨコハマと聞けば、港を思い浮かべる人が多いことだろう。私の母校はその港に近い山手の丘にある。学窓からは遠く大江山塊、富士の秀峰、箱根の連山の美景が四季折々の変化を楽しませ、ヨコハマの街なみが、とてつもなく広

大なキャンパスの中に描かれている。中でも印象深いのは、文化祭の準備で追われていた頃、ふととらえた夕ぐれ時のヨコハマと薄墨色の富士を彩る焼けた空とが、みごとにコントラストをかもし出し、ひととき心のなごむのを覚えたものだった。

卒業後私は就職し、しばらくしてから横浜市勤労青少年センターを知った。このセンターは市の施設として勤労青少年を対象に、年三期の青年教室が設けられ、またふだんはスポーツや各種文化系のサークルを中心に、二千名余の若人が活動している。高校卒業と同時に勤め人になった私は何かしたかった。多くの仲間も欲しかった。センターはそんな私の望みをかなえてくれた場所だ。私はまず、幾つかの講座を受講してみた。また市の交歓会にも参加してみた。現在、私は和裁サークルに所属している。青年教室の着付けの講座を受講したが、きっかけになつて思いがけず多くの知識と興味を覚え、また和裁サークルのリーダーの勧誘も手伝つて、がぜん着物に対する興味が湧いた。しかし私には決定的な欠陥がある。左ききなのだ。はさみはもとより、針も左でなければ運べない私を、先生はうまくリードしてくださった。右ききの先生にとって左の私を

御指導くださるのは、さぞ骨の折れることだろうと思うにつけて、申し訳ないやら、ありがたいやら……。あつといふ間に十カ月が過ぎ、数少ないが作品も出来上がった。まだ先は長いし、ずっとサークル活動を続けていきたいと思つている。このような中で多くの人を知り、友人もできた。先日もグループ連絡会主催のスキーツアーに参加した。バスに揺られて、歌いながら、ああよかった——と、人々とのふれあいに心暖まる感激に浸つた。

このようにたくさんのお楽しみを生み出す母体ともいえるセンターをもつと各区に欲しいとしきりに思う、センターに足を運びたいと思つても地理的条件が悪いとか、交通が不便だったりすれば敬遠せざるを得ない場合もあるのではないか。私たち働く若人にとってセンターの存在は、暖かく憩えるホームになって、コミュニケーションを広げる役目を果たしている。聞くところによると、青少年育成の予算が、僅少だとのこと。数多くの問題をかかえている市政でも、何とか工夫して頂けないものだろうか。素晴らしい人格にふれ、また知識に接することによって生まれる貴重な体験を多くの若人が恵まれるよう願つている昨今です。

(慶応大学事務職員)

市民一人ひとりが支える地域

荒井 幸子 (戸塚区 49歳)

待望の東戸塚駅も昭和五五年秋の開業を目指して、二月一日に起工式が行われました。これから生まれる新しい街は、横浜の顔、安心して生活できる市民中心の街を期待し、力を合わせて進んで行きたいと思ひます。

私達にとって東戸塚駅開業は待ちに待ったことの一つです。多くの方々の長年の努力に感謝申しあげます。散歩を兼ねて買物に出かけられる便利さと、新しい商店街に落ちていて買物出来る店をお願いしたい。駅への交通は大変な混雑が予想されます。是非一日も早い環状2号線の建設が待たれます。

横浜の住民として一七年、ポツンポツンと建てられた殺風景な住宅もそれぞれの風情と落ち着きが出て来ました。毎月第一・第三日曜日朝九時からの下水掃除のときは、終つてから桜の木の所で、その間の出来事、小さな相談ごと、防犯などについて話し合えるひとときでありこれからも続けたい。

ゴミも増えて増えてとみなさんおっしゃる。市でも週三